



発行元：
株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113
〒496-0036
代表TEL:(0567)26-3921
FAX:(0567)26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>



夏の宴2011

笑顔・元気・感謝



また来年！
お楽しみに



家族懇談会 ～～ 夏の宴 2011 の2日目午前中に開催しました ～～ / 愛宕の家

今回、介護スタッフとして初めて愛宕の家の家族懇談会に参加しました。とても有意義な時間であったと感じています。1時間では短いくらいに思えました。愛宕の家からの報告やお知らせ、日頃の様子、トラブルに対する対処法等、普段の面会だけでは伝えきれていない愛宕の家そのものを、ご家族に知って頂く良い機会であったと思います。毎日家族のように過ごしている私達でも、本当に長年一緒に過ごされたご家族の意見や要望は自分自身の介護観を変えるものとなりました。こうした本音で話し合える場は、ご家族の不安除去にもつながり、スタッフはより良い介護を目指していける良い機会になると思います。今後もより多くの方に参加していただき貴重な意見交換ができる家族懇談会を開催できるよう、日々努力したいと思います。<A・H>



おじいちゃん(主介護者)が倒れた / ナイス・ホーム

「おじいちゃんの様子がおかしいから、おばあちゃんを預かってもらえますか？」電話は同居の孫さんから…。緊急で訪問すると、おじいちゃんが救急車で運ばれるところだった。おばあちゃんは若くして認知症を患い、現在は寝たきりで胃ろうから栄養を摂っている状態。おじいちゃんは夫であり、主の介護者だ。主介護者は入院のため不在となり、想像しなかった主介護者の不在という現実直面した家族。その週、おばあちゃんはホームの連泊を緊急利用。この1週間で同居している孫さんや別居の娘さん達の想いがまとまった。『今までおじいちゃんがやっていた事を家族で分担してやってみます。何も分からないので、知っている限りのことを教えて下さい。9月1日には新学期が始まるから、それまでに何とか生活リズムを整えたい。』私達は、家族の声が嬉しかった。おじいちゃんが自分を奮い立たせながらおばあちゃんを見てきた想いや日常の苦労を見てきたからこそ嬉しかった。小規模として、相談助言から、週間スケジュール、24時間夫が行っていた援助を知っている限り伝えた。経管栄養についても看護師が指導に入り、『怖くて胃ろうに触れない』と言っていた孫さんは触れるようになった。同別居全ての家族が役割を担うことで、おばあちゃんは今までと同じ場所、おじいちゃんの帰りを待てることになった。<Y・O>

無口なんかじゃなかった / ナイス・ケア

利用者のHさんは無口で無表情。これが私の持っていた印象。サービス内容は排泄・入浴の介助、家事全般、環境整備…と目白押し。急がないと、あっという間に訪問時間終了間際。ある日の夕方、終了時間10分程前に予定していた内容を終えることが出来た。「時間がちょっとあります」と話すと「背中をさすって欲しい」とHさんから希望された。横になったHさんの背中をさすりながら、話を聞いた。若い頃の夢、ご主人との馴れ初め…生き生きと話すHさんを見て「こんなにいい表情をするんだなあ」と思った。帰り際「また、おしゃべりしようね」と言ってくれた言葉が印象に残った。もしかして、これまでHさんは慌ただしい雰囲気の中に話しかけることが出来なかったのでは？いつの間にか、私は「サービス内容を沢山こなせることが良いヘルパー」だと錯覚していなかったか？Hさんを無口にさせていたのは、私だったのかも知れない。冷や汗が出た。<A・M>

畑作業 / ナイス・キッズ

「今日は1人しかいないから、畑のじゃが芋掘りを一緒にやろう」と社長からの声が掛かった。「雨が降る前に畑のじゃが芋を掘らないと、せっかく育ったものが痛んでしまう。もったいない。」とさらっと話す。いつものメンバーだと遊びになってしまう。「君の様子を見ると、ひとり作業の良いところなのか、ものすごい集中力で掘り続けることが出来た。母親が笑って言う「体を動かして集中作業ができる畑仕事っていいよね」次回も期待したい<R・W>



9月の利用状況

ナイス・ケア(定員なし)
…新規サービス大歓迎
愛宕の家(定員10名)
…入居者10名 満室
つしま紹介所
…新規紹介者様大歓迎
ナイス・ホーム(定員17名)
…登録者17名
10月から1名空き予定あり
ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
4	6	7	8	8	7	7

(数字は定期のご利用者数)
募集中 満員
お気軽にお問い合わせ下さい

あとがき

「こら！ふざけるにも程がある！」いたずらが過ぎたキッズの子ども達に大きな声を上げるのは、利用者さん。突然の雷にビックリ顔だった子ども達は、しばらくして、しおらしく「ごめんなさい」と謝る。「賢くなりなさい」と利用者さんからお説教を受けて一件落着。他人に怒られることが少ない最近の子ども達、S・O・Sでは当たり前の子どもの為を思い真剣に叱る大人。その思いが通じるからこそ、叱られた子ども達は「ごめんなさい」と言え、反省する子に育っていくのだと思います。<A・M>